

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3091500029
法人名	有限会社メディカルサービス有田
事業所名	グループホームゆりのき苑やまち
所在地	和歌山県有田市山地44 (電話) 0737-82-5300

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年3月28日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 3.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1		2 名	要介護2		3 名	
要介護3		0 名	要介護4		3 名	
要介護5		1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均	78 歳	最低	43 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	楠本内科医院、川島歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者は日常的に一人でも散歩に行ける状況にあり、時間を問わず職員はそれを見守っている。家庭的な雰囲気を大事にし、本人らしく生活していけるよう取り組み、当然の事として地域の中で利用者を支え、職員も生き生きと働いている。管理者は、職員に一貫した指導を徹底する中で、その成長を実感しており、利用者・家族の安心感も得られている。人的資源に恵まれた理想的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価において改善課題となっていた地域密着型サービスとしての理念については、地域の中でその人らしい暮らしを支えていくとした文言が加えられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員がミーティングで意見を出し合っってチーフがそれをまとめた。管理者は職員の積極的な話し合いを支援しており、職員が自己評価を振り返りの機会として捉え冷静に気付きを得ている事を評価し、職員の成長を確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地区長や民生委員から地区との交流や、地域における認知症理解等取り組みに関する積極的な意見が出されている。出された意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族面会時には意見や要望を出して貰い易いように声掛けを積極的に行っている。また、夏祭りや忘年会・遠足等行事にも家族の参加を勧めていて意見聴取の機会としており、出された意見等には迅速に対応し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し地域の一人として地域活動に参加している。また、近隣者の訪問や差し入れ、利用者が一人で散歩に出かけている時には見守り話しかけてくれる等、自然体で近所付き合いとしての交流が始まっている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として、その人らしい生活を継続して頂くとの事業所独自の理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日々の業務の中で、常に理念に則ったケアを心がけるよう職員の指導を徹底しており、職員も理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の一員として地域活動に参加している。また、近隣者の訪問や差し入れ、利用者が一人で散歩に出かけている時には見守り話しかけてくれる等、自然体で近所付き合いとしての交流が始まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に評価の意義については十分に理解している。今回の自己評価は、見直しの好機と捉えてミーティングで意見交換を行いチーフがまとめた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームと地域の橋渡し役を担って頂いていると捉えており、地区長や民生委員から「地区との交流を図ってほしい」「認知症について地域の理解を得る必要がある」等と積極的な意見が出される。出された意見をサービス向上に活かしている。	○	出席者に配慮して、農繁期等避けての実施を検討していたが、昨年3月以降機会を逃してしまっている。地域とのつながりをさらに密にする貴重な機会でもある為、回数を増し、出来れば定期的の実施される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは積極的に連携を図っており、利用者の状況等報告し助言を受けたり情報交換等をし、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族宛の便りを発行しており、一人ひとりにコメントとして暮らしぶりの報告を行っている。また、利用者の状況を見ながらこまめに連絡を取ったり面会をお願いしたり等個々に適切な対応がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には意見や要望を出して貰い易いように声掛けを積極的に行っている。また、夏祭りや忘年会・遠足等行事にも家族の参加を勧めて意見聴取の機会としており、出された意見等には迅速に対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が受けられるように異動や離職は最小限に抑える努力がなされている。管理者の配慮の元で職員も定着しており、利用者や家族の安心感が得られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識しており、法人内外の研修受講を職員の業務として認め、積極的に取り組んでいる。職員が意欲を持って仕事に取り組めるよう、リーダーの養成や資格取得も進められており職員のレベルアップが図れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入しており、研修や相互訪問等を通じて情報交換や交流の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに見学して職員や他の利用者の生活の様子を見て貰ったり、時間をかけて面談する等、安心して利用出来る様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を知る中で、その得意分野において力を発揮出来るよう進めており、職員は利用者を人生の先輩として料理や畑仕事を教えて貰っており、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握できるよう、日々の表情や言動を観察し、その裏に隠されている部分を洞察する為の書式が作られており、それを活用する中で十分な把握に努めている。職員には冷静な目を見て、敏感に感じ取れる観察能力が培われる機会にもなっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や意向を尊重し、関係者の意見等も取り入れ十分に時間をかけてアセスメントを行った上で、職員の気付き等全員で意見を出し合って介護計画を作成している。また、職員全員で計画の実行に向けて取り組めるよう、個別介護計画・評価票も作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については期間に応じた見直しを行うと共に、生活上の課題に関連した利用者の訴えや発言等を記録し、計画の実施状況等を確認して見直しに活用するシステムをとり、詳細に把握する中で現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療が受けられる体制が整えられている。また、特別な外出支援により、個々の満足度を高められるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より2週間に1度の往診があり、医師との信頼関係は良好で利用者も心待ちしている。他科受診についても家族との連携の中で適切に支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合や終末期の対応について説明を行っており、本人・家族・かかりつけ医等と方針を共有している。また、状態が悪化した場合等は、繰り返し話し合いの機会を持ち意向を確認し、方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねる事がないよう十分に配慮しており、記録等個人情報の取り扱いについても適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務を優先させず、利用者一人ひとりのペースや希望に沿って生活が出来るよう、徹底した支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に献立を考え、毎日スーパーへ出かけ食材を調達しており、男性利用者が買い物の荷物を持ってきている。また、調理や後片付けを共に行ったり、菜園で収穫した野菜を食卓に載せる等日々食事を楽しむことができる支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者それぞれの希望に沿った時間に行っており、職員との会話を楽しむ等十分に時間をかけて満足が得られるよう支援されている。		
しえ					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や洗濯物干し・調理・食器拭き等の後片付け等、一人ひとりの得意分野を把握する中で、本人がしたいと思う事を役割として力を発揮して貰えるように支援している。また、カラオケ店に出かける等気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出できる環境にあり、近隣者との立ち話を楽しんだり、散歩にでかけており時間を問わず職員はそれを見守っている。また、毎日の買い物や一人ひとりの希望する場所へのドライブ等外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかける事による閉塞感を管理者・職員共に理解しており、日中は施錠せず、職員の見守りの中で利用者が自由に外出できるように取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	綿密な計画の下で避難訓練を実施しており、問題意識を持って取り組まれている事が窺える。また、近隣住民にも協力を依頼し避難誘導の救助要請を行う等働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養バランスについては、一人ひとりの嗜好とも併せて確認している。水分量についても一日を通じて確保できるよう確認し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう、フローアに畳を敷いてホームこたつを置いている。利用者はこたつで寝転がったり、リビングやソファも含めて一人ひとりの好みの場でゆったりと過ごしている。また、窓外の緑や熱帯魚を眺める事ができ、玄関や花畑には季節の花が満開となっており、季節感が満喫できる環境にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て利用者の使い慣れた物や好みの物が置かれてあり、活躍された頃の写真や似顔絵の色紙等が飾られていて、居心地良く過ごせる工夫がなされている。		